

シンガポール発展のシンボル

近代国家の象徴が超高層ビルである。アメリカ・ニューヨークの摩天楼、上海の高層ビル群、ドバイのブルジュ・ハリファは世界一の高さ（828m、160階）、その他には香港、シカゴなどがある。日本では新宿駅西口一帯に林立する東京都庁（243m、地上48階、地下3階）をはじめとするビル群。それに続く大阪駅周辺の発展も目を見張るものがある。

ここシンガポールの中心部とラッフルズ・プレイスにも、マリーナ湾沿いに超高層ビル群が林立している。通信設備の関係で280mの高さ制限がある中で150m～280mまでの超高層ビルが70以上もある。これらの建設には丹下健三設計や、黒川紀章設計などの日本企業も大きく寄与しているから親近感を覚えるとともに嬉しい限りだ。



シンガポールで一番高いビル（ワン・アルティテュード）の63階にある屋上露天バーでの生演奏を聴きながら、夜風に吹かれながら一望できる摩天楼の輝き。そしてディナーに舌鼓を打ちながらの夢のような至福のひと時を楽しむ人達。想像するだけでロマンチックな映画の世界が広がる。更には新たなるランドマークとなったマリーナ・ベイ・サンズでは、地上約200mの屋上のインフィニティプールからの高層ビル群の絶景。

近年著しく発展するシンガポール。その中でも世界三大金融センターであるロンドン、ニューヨークに次いで第3位になっている。更にシンガポール港のコンテナ取扱量は香港、上海を抜いて世界一位。これからも世界はシンガポールから目が離せない。 撮影 2014年秋

